

東京銀座における養蜂を活用した地域づくり

～6年目を迎えた銀座ミツバチプロジェクトの活動～

調査研究部 阿部山 徹

1. はじめに

「銀座ミツバチプロジェクト」とは、2006（平成18）年3月に東京都中央区銀座で始まった、養蜂を活用した地域活性化プロジェクトである。

一般的なイメージからすれば、銀座は農業生産から一番離れた場所であるが、銀座ミツバチプロジェクトは、都市の公園や街路樹などを蜜源として養蜂を行い、地域の協力の元、得られたハチミツを加工、消費（販売）し、銀座で地産地消を実現している。2007年には、「ミツバチの飼育を通じて、銀座の環境と生態系を感じるとともに、採れたハチミツ等を用いて銀座の街と自然との共生を感じることを」¹を目的として、NPO法人化した。

銀座ミツバチプロジェクトでは、ハチミツを販売して得た活動資金を元に、銀座の屋上緑化や都市農村交流イベントなどの活動も行っている。

この度、NPO法人銀座ミツバチプロジェクトの理事長である高安和夫²氏に聞き取り調査を行う機会に恵まれた。この聞き取り調査を元に、本稿では、6年目を迎えた銀座ミツバチプロジェクトの活動を紹介する。

2. 銀座ミツバチプロジェクトの成立

銀座ミツバチプロジェクトは、高安氏と田中淳夫³氏の二人を中心に設立された。

高安氏は、2004年から「銀座食学塾⁴」という食や農に関する勉強会を銀座で主催していた。この活動を積み重ねるうちに、銀座からさらに本格的に食や農の情報を発信し、地産地消を行いたいと考え始めた。様々な農作物の生産を模索したが、採算の面でこれといったものが見つからなかった。

一方、田中氏は、バブル崩壊後、六本木、日本橋、東京など次々と都市開発が進む中、街づくりの方向性が定まらず、取り残されて低迷する銀座の将来を案じていた。貸し会議室業務を行い、高安氏の主催する勉強会などを応援する傍ら、自らも銀座の歴史や文化を学ぶ「銀座の街研究会」を主催していた。銀座から情報を発信し、地域を活性化したいと考えていた。

そのような時、高安氏・田中氏は銀座食学塾のメンバーから東京で養蜂ができる場所を探している養蜂家がいる話を耳にした。田中氏はその時、「自分が管理するビルの屋上を貸せるかもしれない」と感じた。その後、場

1 銀座ミツバチプロジェクトホームページより

2 (有)アグリクリエイト東京支社長。アグリクリエイトは、茨城県稲敷市に本社があり、有機農産物の販売、リサイクルシステムを取扱う業務を行っている。

3 (株)紙パルプ会館常務理事。紙パルプ会館は、貸し会議室業務を行っている。銀座ミツバチプロジェクト副理事長でもある。

4 食の第一人者達を呼んだ勉強会や交流会、茨城で有機無農薬の田んぼ体験「米作り隊」を開催している。現在もその活動は継続中である。

所を探していた養蜂家の藤原誠太⁵氏が上京した際、高安氏・田中氏の3人で会い、銀座で養蜂が可能であるかどうか、検討することになった。

最終的には、田中氏が管理する紙パルプ会館の屋上で、高安氏・田中氏が中心となって養蜂を行い、技術面で、藤原氏が支援する形で始めることになった。高安氏・田中氏の主催する研究会のメンバーを中心に活動する仲間が集まった。一番難関だと思われた、養蜂場となるパルプ会館のテナント・地域の商工会・区役所等の了解を得ることもできた。

高安氏の銀座で食や農の情報を発信したいという思いと田中氏の銀座の街を活性化したいという二つの思いが重なり、銀座ミツバチプロジェクトは本格的に動き出した。銀座での養蜂は、開始前から話題となった。

3. 銀座ミツバチプロジェクトの活動

1) 屋上養蜂

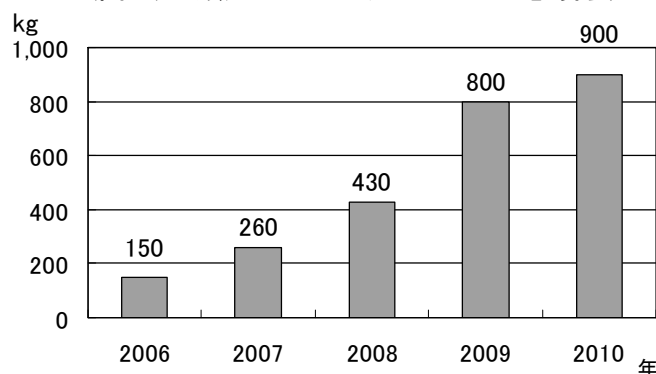
銀座ミツバチプロジェクトでは、セイヨウミツバチ⁶とニホンミツバチ⁷を飼育している。銀座のハチミツは、主にセイヨウミツバチが収蜜したものである。2010年には銀座内に新たな養蜂場を確保し、現在、二つの養蜂場で採蜜している。

初年度の2006年の採蜜量は、150kgであった。その後も年々増加し、2010年には、900kg⁸となった(図1)。このように採蜜が可能であったのは、銀座周辺に、日比谷公園・浜離宮公園など多くの蜜源があったからである。

採蜜の時期は4月～6月で、蜜源となる樹木は、ソメイヨシノ・菜の花・マロニエ・ユリノキ・ミカンなど多彩である。

この養蜂場では定期的に見学会が開かれ、地域住民への養蜂の理解促進や子どもたちの食育の教材としても活用されている。

(図1)「銀座ミツバチプロジェクト」採蜜量



(資料) 聞き取り調査より筆者作成

5 岩手県盛岡市にある(有)藤原養蜂場の場長。東京の永田町で屋上養蜂の実績がある。ニホンミツバチの研究者としても知られる養蜂家である。

6 収蜜能力に優れ、西洋において家畜化された。日本には、明治時代に輸入された。

7 日本の在来種。家畜化されていない。現在、巣箱で飼うことが試みられ、一部では成功している。採蜜は、1年に1回が基本。セイヨウミツバチに比べると、採蜜量は、1/5～1/20と少ない。

8 これは、国内生産量の約0.015%に相当する。平成20年のハチミツ生産量は、2,838トン(養蜂をめぐる情勢について(農林水産省)(平成21年7月)より)。平成20年を例にとると、0.43トン÷2,838トン=0.015%

2) 銀座産ハチミツを使った商品の開発

銀座で働く職人の持つ高い技術を活用して、初年度からお菓子⁹、カクテル¹⁰などの様々な銀座産ハチミツ入り商品ができあがった。できあがった商品は、「銀座にこなければ食べられない味」として、銀座限定で販売され、大きな話題となっている。

銀座で、ハチミツの生産から加工、消費(販売)まで行う、地産地消という新しい流れが生まれている。

また、商品を作る職人を養蜂場に案内し、実際に採蜜現場を見せることで、銀座産のハチミツに対する銀座ミツバチプロジェクトの思いを職人に伝えた。その活動を通して、銀座で働く人たちと銀座ミツバチプロジェクトとのつながりが強まっている。

3) 屋上緑化

銀座ミツバチプロジェクトでは、銀座の屋上での緑化や農作物の栽培にも積極的に関わっている。養蜂に触発され、銀座で米を作って醸造し、銀座産の日本酒として発売する動きも起こった。また、ミツバチの蜜源になるようにと、屋上に花や野菜を植える人も現れた。銀座ミツバチプロジェクトに屋上農園の管理を委託する団体もある。

2008年から、銀座ミツバチプロジェクトでは、「ミツバチのために花を植えよう、食べられる食物を」というコンセプトで、普段、屋上緑化に協力している農園を「銀座ビー・ガーデン (Ginza Bee garden)」と名づけ、ミ

ツバチの蜜源づくりや農作物づくりを意識した活動を始めた。松屋百貨店、NTT東日本など多くの企業の協力のもと、「銀座ビー・ガーデン」は、広まっている。

これら屋上緑化の取り組みによりできた農園は、近隣小学生の農作業体験の場としても活用されている。

また、銀座産ハチミツ入りカクテルを作った縁で交流を深めてきた「銀座社交料飲協会¹¹ (GSK)」は、銀座ミツバチプロジェクトと一緒に、銀座で行う緑化活動や農作業などに積極的に参加している。

このような活動を通して、地域で顔が見える関係が、次々と築かれていった。

4) 都市農村交流

(1) 都市農村交流イベントの開催

銀座で消費者と生産者の顔が見える関係を築くため、養蜂場がある紙パルプ会館で2008年から「ファーム・エイド銀座」という都市農村交流イベントを開始した。会場では、マルシェ(農産物の販売)・シンポジウム・養蜂場見学など、様々な催しが行われている。このイベントは、子どもから大人まで幅広い層に対して、農業・農村・環境を知り楽しめるイベントとなっている。イベントは、年4回のペースで開催され、直近では4月29日に行われた。東日本大震災直後ということもあり、被災地を応援するための「頑張れ!東北応援サロン」というコーナーも設けられた。また、翌30日は、風評被害による農産物の販

9 例えば、「はちみつマドレーヌ」(発売元:アンリ・シャルパンティエ)、「銀座のはちみつデニッシュ」(同:メゾンカイザー)、「はちみつのケーキ」(同:ミクニギンザ)など多数

10 例えば、「銀座ハニーハイボール」(通称、ハニハイ)という名前で、現在、約60軒の銀座のバーで販売されている。

11 銀座のバー、クラブ、料理屋など1,700名の会員がいる飲食店組合

売価格の下落に苦しむ茨城県の農家を支援するため、「茨城緊急復興支援マルシェin銀座」を開催した。

このイベントの開催を通じ、新潟、福島、茨城など様々な地域との交流が生まれた。

(2) 銀座から農村へ

NPO法人とは別に、2010年3月には、田中氏を社長に「農業生産法人株式会社銀座ミツバチ」が設立された。福島県福島市荒井地区に、50aの遊休農地を借り受け、養蜂を中心とする農業生産を開始した。この農地は、「銀座ビー・ガーデンin福島」と名づけられ、都市農村交流の場としても活用されている。

今年の5月4、5日には、「東日本大震災復興支援『銀ばち¹²×福島』交流ツアー」を実施した。参加者は、初日の4日に、福島市の土湯温泉で、地元の住民やここに避難している南相馬市・浪江町民との交流を行い、被災地の方々を励ました。翌5日には、銀座ビー・ガーデンで、トウモロコシや枝豆を植える農作業体験を行った。銀座で始まった都市と農村の交流が、福島においても実現している。

この農場で生産された農作物は農作業体験に訪れた人に販売され、現地では加工品も作られている。また、一部は銀座の飲食店で加工され、販売される。

(3) プロジェクトの裾野の広がり

2008年ごろから銀座ミツバチプロジェクトの活動を参考に、養蜂を活用して地域を活性化させようとする取り組みが、東京だけでは

なく、各地で行われ始めた¹³。

これらの活動に対して、銀座ミツバチプロジェクトでは、志を同じくするプロジェクトだけに、今まで培ってきた活動のノウハウを公開し、各地のプロジェクトが早く立ち上がり、軌道にのるように協力をしている。

4. 考察

1) 地域の強みの再発見

一般的に言えば、銀座は、消費（販売）や情報発信、高級感漂うブランドの街ととらえられるだろう。しかし、その歴史を振り返れば、従来はものづくりの街であり、異質なもののや新しいものを取り込みながら発展するという柔軟性を持つ街でもあった。銀座ミツバチプロジェクトの活動は、銀座が従来持つこれらの強みを再発見させることにもつながった。

また、ミツバチの活動によって、近隣の公園や街路樹の木や花が実を付け鳥の餌になるなど、地域の生態系を豊かにすることに貢献していることも分かった。改めて、銀座周辺には多くの自然があるという強みを確認するとともに、ミツバチの活動を通して銀座が自然と共生する街であるという新しい魅力を発信することができることも分かった。

銀座ミツバチプロジェクトの活動は、一見すると場違いに見える。しかし、実は銀座の強みをいかした銀座らしい活動でもある。そして、ハチミツの提供だけではなく銀座と自然との共生という新しい魅力や地域内での交流活動も増やしたため、多くの地域住民に理解され、地域の活性化につながったといえよう。

12 銀座ミツバチプロジェクトの通称。

13 東京では、日本橋・品川・恵比寿・江古田・多摩センター、その他の都市では、札幌、福島、名古屋、大阪、小倉、大分などにもその活動は広まっている。

2) 公共財の活用と社会還元

もとより公園や街路樹は税金で維持されている公共的な資源である。これを蜜源とする活動を行う場合、公共性を踏まえると、活用成果はより公共的な目的に振り向けられ社会に還元されることが望まれる。

銀座ミツバチプロジェクトの場合、2006年から、地域住民に対して養蜂場の見学会を定期的で開催している。近隣の小学校等に対しては、養蜂場見学だけでなく出前授業を行い、食育の教材の中にも養蜂が取り込まれている。また、ハチミツを販売して得た活動資金を元に、自ら多くのイベントを主催し、できるだけ多くの人に養蜂について理解してもらう活動を行っている。

養蜂という特定の食材の生産と加工という限定された取り組みであっても、関与する人々の裾野を広げ、農業と多様な社会の形成のための理解を深める教育的な活動を付随させることは、その社会的要請に応えるという意義を有しているともいえよう。

5. おわりに

今後の銀座ミツバチプロジェクトの活動について、高安氏は、「引き続き屋上農園やファーム・エイドで知りあった人々や地域を支援していきたい。また、新しくIT技術を活用した、小規模な農家を支援するための、農産物の『見える化』に取り組み、これまで以上に、銀座から農家を応援する仕組みを作りたい」と語ってくれた。

今後とも銀座ミツバチプロジェクトのように、都市住民が、都市で農業・農村への意識や理解度を高め、農業・農村と積極的に関わろうとする動きが生まれてくると思われる。

今後の動きに注目したい。

—謝辞—

最後に、大変お忙しいところ聞き取り調査にご協力してくださいましたNPO法人「銀座ミツバチプロジェクト」の高安和夫理事長に、この場を借りて御礼申し上げます。

(参考文献)

- ・ 田中淳夫 (2009) 『銀座ミツバチ物語～美味しい景観づくりのすすめ』時事通信社
- ・ 銀座ミツバチプロジェクト編 (2007) 『銀座・ひとと花とミツバチと』オンブック
- ・ 吉田忠晴 (2009) 『ミツバチの不足と日本の農業のこれから』飛鳥新社
- ・ 野中郁次郎・勝見明共著 (2010) 『イノベーションの知恵』日経BP社
- ・ 越中矢住子 (2010) 『ミツバチは本当に消えたのか?』サイエンスアイ新書
- ・ 恵泉銀座センター編集 (2009) 『新銀座学 銀座を代表する13人の人生哲学』さこう社
- ・ 銀座ミツバチプロジェクトホームページ
(<http://www.gin-pachi.jp/> 2011.6.6閲覧)
- ・ 社団法人日本養蜂はちみつ協会
(<http://bee.lin.gr.jp/> 2011.6.6閲覧)
- ・ 社団法人銀座社交料飲協会ホームページ
(<http://gsknet.com/index.html> 2011.6.6閲覧)
- ・ 農林水産省ホームページ
(<http://www.maff.go.jp/> 2011.6.6閲覧)